

改善報告書

令和元年 7月18日

1. 大学名：中国学園大学

2. 認証評価実施年度：平成28年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

国際教養学部国際教養学科においては学年進行中であるものの、学部開設以降2年間の入学定員充足率が著しく低いので、今後抜本的な対策を検討し、定員を充足するように改善が必要である。

4. 改善状況及び結果

基準項目2-1について

平成31年度学生募集に向けて、専門性を高める方向で、教育体制を従来の3フィールド制から3コース制に改組した。改組の狙いを受験生に伝えるために、学部開設以来の学部全体の教育方針の下、各コースが目指す教育目標を明示し、受験生が各コースにおいて修得することになる教育内容をイメージしやすくした。3コースの名称は次の通りである。英語プロフェッショナル・コース、地域発ビジネス・コース、日本探求コース。それに対応して教育課程表を再編したが、そこではゼミナール、地域アクティブラーニング、卒業研究など実践教育を重視するとともに、社会的ニーズに対応して観光学、日本語教育に関連した科目を新たに設けた。加えて、3、4年生に対する就職対策を就職支援センターと連携して計画的に実施し、平成30年度卒業生の就職率100%を達成した。今後の入試広報活動において、当学部の教育実績を具体的に示す得るデータを得た。

さらに、入学定員の見直しを行った。開設年次である平成17年度の定員を80名としたが、4年間の充足率の実績から判断して、平成31年度からは50名に変更した。

上記した改組を広報して実施した平成31年度入試では、改組の内容が受験生にまだ十分に浸透していなかったとみえて、その成果は現れなかった。

結果として定員削減や学科の改編を行っても改善が見られなかったことから、理事会の承認のもとに、学長を中心として外部コンサルタントや専門家による学部の問題点等の洗い出しを本年夏を目途に実施しており、この結果を受けて、理事会等からの意見も聞きながら、抜本的な改革を進める。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目2-1の資料

- ・新旧国際教養学部国際教養学科・教育課程表
- ・2019年度大学案内
- ・過去4年間の入学定員充足率